

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	2022年 5 月20日
【計算期間】	第 5 期中（自 2021年 8 月21日 至 2022年 2 月20日）
【ファンド名】	ラッセル・インベストメントDC国内債券F（運用会社厳選型）
【発行者名】	ラッセル・インベストメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼CEO ジョン・アール・ムーア
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門一丁目3番1号
【事務連絡者氏名】	小室 絵美
【連絡場所】	東京都港区虎ノ門一丁目3番1号
【電話番号】	03-6203-0200
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1【ファンドの運用状況】

以下は2022年3月末現在の運用状況です。

(1)【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	603,702,621	100.06
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		347,146	0.06
合計(純資産総額)		603,355,475	100.00

(注)投資比率とは、当ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(参考)ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
国債証券	日本	7,143,762,240	60.76
地方債証券	日本	2,099,653,000	17.86
特殊債券	日本	701,012,767	5.96
社債券	日本	601,831,500	5.12
	フランス	200,141,000	1.70
	スペイン	99,718,000	0.85
	イギリス	99,996,000	0.85
	小計	1,001,686,500	8.52
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		810,895,870	6.90
合計(純資産総額)		11,757,010,377	100.00

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

その他の資産の投資状況

資産の種類	建別	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
債券先物取引	買建	日本	449,100,000	3.82
	買建	シンガポール	343,597,000	2.92

(注1)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(注2)時価は、原則として計算日に知り得る直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しております。

(2)【運用実績】

【純資産の推移】

2022年3月末日および同日1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

期	年月日	純資産総額(円)		1口当たり純資産額(円)	
		(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
1期	(2018年 8月20日)	181,759,027	181,759,027	0.9982	0.9982
2期	(2019年 8月20日)	307,739,009	307,739,009	1.0341	1.0341
3期	(2020年 8月20日)	412,597,404	412,597,404	1.0041	1.0041
4期	(2021年 8月20日)	539,846,686	539,846,686	1.0070	1.0070
	2021年 3月末日	487,624,282		1.0002	
	4月末日	492,998,024		1.0016	
	5月末日	515,646,201		1.0022	
	6月末日	535,223,613		1.0031	
	7月末日	537,296,701		1.0072	
	8月末日	537,510,903		1.0060	
	9月末日	558,617,042		1.0021	
	10月末日	561,989,607		1.0009	
	11月末日	565,431,228		1.0035	
	12月末日	588,078,150		1.0010	
	2022年 1月末日	567,917,355		0.9941	
	2月末日	580,062,203		0.9905	
	3月末日	603,355,475		0.9873	

【分配の推移】

期	1口当たりの分配金(円)
1期	0.0000

2期	0.0000
3期	0.0000
4期	0.0000

【収益率の推移】

期	収益率(%)
1期	0.2
2期	3.6
3期	2.9
4期	0.3
5期(中間)	2.0

(注1) 収益率は、各計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を、前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて算出しています。

(注2) 収益率は、小数点第2位を四捨五入しています。

2【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績は次の通りです。

期	設定口数(口)	解約口数(口)
1期	227,046,451	44,963,854
2期	181,066,517	65,570,751
3期	275,768,525	162,428,550
4期	244,173,345	118,986,205
5期(中間)	119,755,638	70,746,801

(注1) 本邦外における設定、解約の実績はありません。

(注2) 第1期の設定口数は当初募集期間中の設定口数を含みます。

3【ファンドの経理状況】

- (1) ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- (2) ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（2021年8月21日から2022年2月20日まで）の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による中間監査を受けております。

中間財務諸表

【ラッセル・インベストメントDC国内債券F(運用会社厳選型)】

(1)【中間貸借対照表】

(単位:円)

	前計算期間末 2021年 8月20日現在	当中間計算期間末 2022年 2月20日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	10,000
親投資信託受益証券	541,236,384	578,918,017
未収入金	8,490,107	1,998,127
流動資産合計	549,726,491	580,926,144
資産合計		
	549,726,491	580,926,144
負債の部		
流動負債		
未払解約金	8,490,107	2,082,597
未払受託者報酬	138,977	157,228
未払委託者報酬	1,250,721	1,414,981
流動負債合計	9,879,805	3,654,806
負債合計		
	9,879,805	3,654,806
純資産の部		
元本等		
元本	536,105,478	585,114,315
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	3,741,208	7,842,977
(分配準備積立金)	5,166,395	4,565,433
元本等合計	539,846,686	577,271,338
純資産合計		
	539,846,686	577,271,338
負債純資産合計		
	549,726,491	580,926,144

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前中間計算期間 自 2020年 8月21日 至 2021年 2月20日	当中間計算期間 自 2021年 8月21日 至 2022年 2月20日
営業収益		
有価証券売買等損益	1,303,687	10,107,172
営業収益合計	1,303,687	10,107,172
営業費用		
受託者報酬	123,961	157,228
委託者報酬	1,115,586	1,414,981
営業費用合計	1,239,547	1,572,209
営業利益又は営業損失()	2,543,234	11,679,381
経常利益又は経常損失()	2,543,234	11,679,381
中間純利益又は中間純損失()	2,543,234	11,679,381
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	23,031	471,393
期首剰余金又は期首欠損金()	1,679,066	3,741,208
剰余金増加額又は欠損金減少額	561,723	79,443
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	561,723	79,443
剰余金減少額又は欠損金増加額	245,041	455,640
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	245,041	455,640
中間剰余金又は中間欠損金()	570,517	7,842,977

(3)【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
-----------------	--

(中間貸借対照表に関する注記)

区 分	前計算期間末 2021年 8月20日現在	当中間計算期間末 2022年 2月20日現在
1. 期首元本額	410,918,338円	536,105,478円
期中追加設定元本額	244,173,345円	119,755,638円
期中一部解約元本額	118,986,205円	70,746,801円
2. 元本の欠損	-	中間貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は7,842,977円であります。
3. 中間計算期間末日における受益権の総数	536,105,478口	585,114,315口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

前中間計算期間 自 2020年 8月21日 至 2021年 2月20日	当中間計算期間 自 2021年 8月21日 至 2022年 2月20日
該当事項はありません。	同左

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区 分	前計算期間末 2021年 8月20日現在	当中間計算期間末 2022年 2月20日現在
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、原則として計算期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。	中間貸借対照表計上額は、原則として中間計算期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項	有価証券以外の金融商品 有価証券以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。 有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。	有価証券以外の金融商品 同左 有価証券 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

前計算期間末 2021年 8月20日現在	当中間計算期間末 2022年 2月20日現在
該当事項はありません。	同左

（デリバティブ取引等に関する注記）

前計算期間末 2021年 8月20日現在	当中間計算期間末 2022年 2月20日現在
該当事項はありません。	同左

（1口当たり情報に関する注記）

区 分	前計算期間末 2021年 8月20日現在	当中間計算期間末 2022年 2月20日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0070円 (10,070円)	0.9866円 (9,866円)

（参考情報）

ファンドは、「ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券です。なお、同親投資信託の状況は次の通りです。

「ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

（単位：円）

区 分	2021年 8月20日現在	2022年 2月20日現在
	金 額	金 額
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	931,580,101	975,663,494
国債証券	7,795,421,001	6,954,749,375
地方債証券	1,181,863,000	1,980,009,800
特殊債券	731,419,598	705,010,385
社債券	988,655,900	1,100,351,500
派生商品評価勘定	6,625,295	-
未収入金	-	179,763,800
未収利息	20,035,012	19,630,646
前払費用	921,384	2,395,895
差入委託証拠金	12,341,347	19,480,324
流動資産合計	11,668,862,638	11,937,055,219
資産合計	11,668,862,638	11,937,055,219
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	7,951,101
未払金	-	179,697,600
未払解約金	30,490,106	14,998,126
未払利息	2,781	2,539
その他未払費用	5,482	-
流動負債合計	30,498,369	202,649,366
負債合計	30,498,369	202,649,366
純資産の部		
元本等		
元本	8,012,281,054	8,222,022,770
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	3,626,083,215	3,512,383,083

元本等合計	11,638,364,269	11,734,405,853
純資産合計	11,638,364,269	11,734,405,853
負債純資産合計	11,668,862,638	11,937,055,219

(注)「ラッセル・インベストメント日本債券マザーファンド」の計算期間は毎年11月19日から翌年11月18日までであり、開示対象ファンドの計算期間と異なります。上記の貸借対照表は、2021年8月20日及び2022年2月20日における同親投資信託の状況であります。

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>有価証券</p> <p>組入有価証券は個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融商品取引所等に上場されている有価証券 時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における開示対象ファンドの中間計算期間末日の最終相場(外貨建証券の場合は開示対象ファンドの中間計算期間末日において知りうる直近の最終相場)で評価しております。 開示対象ファンドの中間計算期間末日に当該金融商品取引所等の最終相場がない場合には、当該金融商品取引所等における直近の日の最終相場で評価しておりますが、直近の日の最終相場によることが適当でない認められた場合は、当該金融商品取引所等における開示対象ファンドの中間計算期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 時価評価にあたっては、原則として日本証券業協会発表の売買参考統計値(平均値)、金融機関の提示する価額(ただし、売気配相場は使用しない)又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。 時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	<p>先物取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、原則として開示対象ファンドの中間計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によって</p>

(貸借対照表に関する注記)

2021年8月20日現在	2022年2月20日現在
1. 本書における開示対象ファンドの期首における 当該親投資信託の元本額 7,924,874,289円 期中追加設定元本額 772,245,043円 期中一部解約元本額 684,838,278円	1. 本書における開示対象ファンドの期首における 当該親投資信託の元本額 8,012,281,054円 期中追加設定元本額 493,662,944円 期中一部解約元本額 283,921,228円
元本の内訳 ラッセル・インベストメント日本債券ファンド (適格機関投資家限定) 1,640,752,875円 ラッセル・インベストメント日本債券ファンド (適格機関投資家限定) 272,666,054円 ラッセル・インベストメント日本債券ファンド - 1 (適格機関投資家限定) 5,628,934,748円 ラッセル・インベストメントDC国内債券F (運用会社厳選型) 372,598,365円 ラッセル・インベストメント・グローバル・バラン ス 安定型 23,134,662円	元本の内訳 ラッセル・インベストメント日本債券ファンド (適格機関投資家限定) 1,731,492,633円 ラッセル・インベストメント日本債券ファンド (適格機関投資家限定) 220,024,318円 ラッセル・インベストメント日本債券ファンド - 1 (適格機関投資家限定) 5,754,511,568円 ラッセル・インベストメントDC国内債券F (運用会社厳選型) 405,632,019円 ラッセル・インベストメント・グローバル・バラン ス 安定型 24,487,118円

ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス 安定成長型	53,981,620円	ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス 安定成長型	63,912,639円
ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス 成長型	20,212,730円	ラッセル・インベストメント・グローバル・バランス 成長型	21,962,475円
計	8,012,281,054円	計	8,222,022,770円
2.本書における開示対象ファンドの計算期間末日における受益権の総数	8,012,281,054口	2.本書における開示対象ファンドの中間計算期間末日における受益権の総数	8,222,022,770口

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区 分	2021年 8月20日現在	2022年 2月20日現在
1.貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、原則として開示対象ファンドの計算期間末日の時価で計上しているため、その差額はありませ	貸借対照表計上額は、原則として開示対象ファンドの中間計算期間末日の時価で計上しているため、その差額はありませ
2.金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引等に関する事項	有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品については、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。 有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載してあります。 デリバティブ取引等 「（デリバティブ取引等に関する注記）」の「取引の時価等に関する事項」に記載してあります。	有価証券及びデリバティブ取引等以外の金融商品 同左 有価証券 同左 デリバティブ取引等 同左
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引等に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引等における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引等のリスクの大きさを示すものではありません。	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引等に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引等における名目的な契約額、または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引等のリスクの大きさを示すものではありません。

(有価証券に関する注記)

2021年 8月20日現在	2022年 2月20日現在
該当事項はありません。	同左

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

債券関連 (2021年8月20日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引	債券先物取引 買建	1,136,345,580	-	1,142,975,000	6,629,420
	合計	1,136,345,580	-	1,142,975,000	6,629,420

(注)1. 債券先物取引の評価方法

原則として開示対象ファンドの計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場
で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、開示対象ファンドの計算期間末日に最も近い
最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 債券先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

債券関連 (2022年2月20日現在)

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引	債券先物取引 買建	622,698,336	-	614,754,000	7,944,336
	合計	622,698,336	-	614,754,000	7,944,336

(注)1. 債券先物取引の評価方法

原則として開示対象ファンドの中間計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終
相場で評価しております。このような時価が発表されていない場合には、開示対象ファンドの中間計算期間末日に
最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2. 債券先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。
3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

(1口当たり情報に関する注記)

区 分	2021年 8月20日現在	2022年 2月20日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.4526円 (14,526円)	1.4272円 (14,272円)

4【委託会社等の概況】

(1)【資本金の額】

2022年3月末現在の委託会社の資本金の額：490百万円

委託会社が発行する株式総数：40,000株

発行済株式総数：34,090株

(2)【事業の内容及び営業の状況】

委託会社は、投信法に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また金融商品取引法に定める第二種金融商品取引業および投資助言業務等を行っています。

2022年3月末現在、委託会社の運用する証券投資信託（親投資信託は除きます。）は以下の通りです。

種 類	本 数	純資産総額
追加型株式投資信託	32本	158,614,965,802円
単位型株式投資信託	0本	0円
追加型公社債投資信託	0本	0円
単位型公社債投資信託	0本	0円
合 計	32本	158,614,965,802円

(3)【その他】

本書提出前6月以内において、訴訟事件その他委託会社等に重要な影響を及ぼした事実および重要な影響を及ぼすことが予想される事実は生じておりません。

5【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第24期事業年度(自2021年1月1日 至2021年12月31日)の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による監査を受けております。

財務諸表

(1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第23期 (2020年12月31日現在)	第24期 (2021年12月31日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	1,166,384	2,667,202
前払費用	44,207	45,192
未収委託者報酬	319,860	333,851
未収運用受託報酬	1,809,040	2,077,095
未収投資助言報酬	241,699	199,166
その他流動資産	161,039	88,903
流動資産合計	3,742,231	5,411,412
固定資産		
有形固定資産		
建物付属設備	193,041	168,956
器具備品	49,674	45,461
有形固定資産合計	242,715	214,418
投資その他の資産		
長期差入保証金	192,056	138,854
繰延税金資産	55,112	-
投資その他の資産合計	247,168	138,854
固定資産合計	489,884	353,272
資産合計	4,232,115	5,764,684

(単位：千円)

	第23期 (2020年12月31日現在)	第24期 (2021年12月31日現在)
負債の部		
流動負債		
預り金	116,769	33,806
未払金		
未払手数料	43,367	58,091
未払委託調査費	636,955	749,584
未払委託計算費	6,839	6,654
その他未払金	427,969	1,215,416
未払金合計	1,115,132	2,029,746

未払費用	41,223	37,887
未払消費税等	170,356	377,908
未払法人税等	33,749	158,649
前受金	58,773	59,873
賞与引当金	471,930	457,540
リース債務	3,240	3,240
流動負債合計	2,011,174	3,158,652
固定負債		
資産除去債務	39,081	41,239
長期未払金	969,842	960,625
長期未払費用	8,435	13,353
長期リース債務	8,102	4,861
固定負債合計	1,025,461	1,020,079
負債合計	3,036,636	4,178,732
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,000	490,000
資本剰余金		
資本準備金	13,685	13,685
資本剰余金合計	13,685	13,685
利益剰余金		
利益準備金	108,814	108,814
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	582,978	973,451
利益剰余金合計	691,792	1,082,265
株主資本合計	1,195,478	1,585,951
純資産合計	1,195,478	1,585,951
負債純資産合計	4,232,115	5,764,684

(2)【損益計算書】

(単位：千円)

	第23期 (自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日)	第24期 (自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日)
営業収益		
委託者報酬	1,057,846	1,187,703
運用受託報酬	5,893,355	8,213,845
投資助言報酬	596,632	615,401
その他収益	532,590	491,064
営業収益合計	8,080,425	10,508,015
営業費用		
支払手数料	156,431	213,651
広告宣伝費	1,742	1,819
調査費		
委託調査費	4,496,599	5,175,514
図書費	1,522	1,380
調査費合計	4,498,121	5,176,894
委託計算費	71,826	73,375
業務委託費	244,392	264,270
営業雑経費		

通信費	10,545	7,772
印刷費	9,421	9,722
協会費	10,926	10,765
営業雑経費合計	30,893	28,259
営業費用合計	5,003,408	5,758,270
一般管理費		
給料		
役員報酬	48,829	46,810
給料・手当	1,075,334	1,078,410
賞与	7,516	5,640
賞与引当金繰入額	471,930	457,540
給料合計	1,603,610	1,588,403
福利厚生費	162,591	167,427
交際費	2,000	1,803
寄付金	275	372
旅費交通費	5,831	845
租税公課	27,937	51,042
不動産賃借料	87,460	163,047
退職給付費用	150,467	150,539
消耗器具備品費	349,365	412,378
事務委託費	5,124	-
修繕費	3,882	2,993
水道光熱費	4,143	3,980
会議費用	1,340	375
固定資産減価償却費	27,743	35,451
諸経費	286,147	122,843
一般管理費合計	2,717,921	2,701,504
営業利益又は営業損失()	359,095	2,048,240
営業外収益		
受取利息	15	11
為替差益	24,781	-
その他営業外収益	2,733	2,331
営業外収益合計	27,530	2,342
営業外費用		
為替差損	-	62,685
営業外費用合計	-	62,685
経常利益又は経常損失()	386,626	1,987,897
特別利益		
資産除去債務戻入益	37,460	-
受取補償金	90,434	-
特別利益合計	127,894	-
特別損失		
割増退職金	55,043	3,206
固定資産除却損	1 85,317	-
特別損失合計	140,361	3,206
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	374,159	1,984,690
法人税、住民税及び事業税	148,565	706,126
法人税等調整額	55,112	55,112
法人税等合計	93,453	761,239
当期純利益又は当期純損失()	280,706	1,223,451

(3) 【株主資本等変動計算書】

第23期 (自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日)									
	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本 合計	
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	490,000	13,685	-	13,685	108,814	802,272	911,086	1,414,772	1,414,772
当期変動額									
剰余金の配当	-	-	-	-	-	500,000	500,000	500,000	500,000
当期純利益又は 当期純損失（ ）	-	-	-	-	-	280,706	280,706	280,706	280,706
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	219,293	219,293	219,293	219,293
当期末残高	490,000	13,685	-	13,685	108,814	582,978	691,792	1,195,478	1,195,478

（単位:千円）

第24期 (自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日)									
	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本 合計	
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	490,000	13,685	-	13,685	108,814	582,978	691,792	1,195,478	1,195,478
当期変動額									
剰余金の配当	-	-	-	-	-	832,978	832,978	832,978	832,978
当期純利益又は 当期純損失（ ）	-	-	-	-	-	1,223,451	1,223,451	1,223,451	1,223,451
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	390,473	390,473	390,473	390,473
当期末残高	490,000	13,685	-	13,685	108,814	973,451	1,082,265	1,585,951	1,585,951

注記事項

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	該当事項はありません。
2. 固定資産の減価償却の方法	有形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。
3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換 算基準	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算 し、換算差額は損益として処理しております。
4. 引当金の計上基準	賞与引当金 従業員に対し支給する賞与の支出に充てるため、賞与支給見込額 の当事業年度負担額を計上しております。

5. リース取引の処理方法	リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
6. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	(1) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 (2) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

当事業年度の財務諸表等の作成にあたって行った会計上の見積りが当事業年度の翌事業年度の財務諸表等に重要な影響を及ぼすリスクを識別していないため、注記を省略しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年12月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日）
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）
- ・「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）

(1) 概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（以下「時価算定会計基準等」という。）が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は次の項目の時価に適用されます。

- ・「金融商品に関する会計基準」における金融商品

また、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

(2) 適用予定日

2022年12月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

(貸借対照表関係)

第23期 2020年12月31日現在		第24期 2021年12月31日現在	
*1 有形固定資産の減価償却累計額	*1 有形固定資産の減価償却累計額		
建物付属設備	5,224千円	建物付属設備	29,888千円
器具備品	18,390千円	器具備品	29,177千円

*2 関係会社項目 その他未払金	83,267千円	*2 関係会社項目 その他未払金	568,357千円
---------------------	----------	---------------------	-----------

(損益計算書関係)

第23期 自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日	第24期 自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日
*1 固定資産除却損 器具備品 10,910千円 建物付属設備 74,407千円 <u>85,317千円</u>	該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

第23期 自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日					第24期 自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日						
1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項					1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項						
株式の種類	当期首株式数(株)	当期増加株式数(株)	当期減少株式数(株)	当期末株式数(株)	株式の種類	当期首株式数(株)	当期増加株式数(株)	当期減少株式数(株)	当期末株式数(株)		
発行済株式					発行済株式						
普通株式	34,090	-	-	34,090	普通株式	34,090	-	-	34,090		
合計	34,090	-	-	34,090	合計	34,090	-	-	34,090		
2. 配当に関する事項					2. 配当に関する事項						
(1)配当金支払額					(1)配当金支払額						
決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日	決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日
2020年7月23日 取締役会	普通株式	100,000千円	2,933.41円	2020年6月30日	2020年7月28日	2021年5月26日 株主総会	普通株式	582,978千円	17,101.16円	2020年12月31日	2021年6月1日
2020年11月24日 株主総会	普通株式	400,000千円	11,733.64円	2019年12月31日	2020年12月4日	2021年11月10日 株主総会	普通株式	250,000千円	7,333.52円	2021年6月30日	2021年11月16日
(2)基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの 該当事項はありません。					(2)基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの 同左						

(リース取引関係)

第23期 自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日	第24期 自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日
注記すべきリース取引を行っていないため、該当事項はありません。	同左

(金融商品関係)

第23期 2020年12月31日現在				第24期 2021年12月31日現在																																							
<p>1. 金融商品の状況に関する事項</p> <p>(1) 金融商品に対する取組方針 当社は、資金運用については預金等に限定し、また、必要な資金についてはグループ会社より調達しております。デリバティブに該当する事項はありません。</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制 当社が保有する金融資産は、主として預金、国内の取引先に対する未収委託者報酬、未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬であり、取引先の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、ファイナンス&コーポレート・サービス部において取引先ごとの期日管理及び残高管理を行う体制としております。</p> <p>未払金及び未払消費税等は、短期間で決済されております。未払金には、外貨建てのものが含まれており、為替変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、ファイナンス&コーポレート・サービス部においてリスク管理及び残高管理を行う体制としております。</p>				<p>2. 金融商品の時価等に関する事項</p> <p>2020年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸借対照表計上額()</th> <th>時価()</th> <th>差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 預金</td> <td>1,166,384</td> <td>1,166,384</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2) 未収委託者報酬</td> <td>319,860</td> <td>319,860</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3) 未収運用受託報酬</td> <td>1,809,040</td> <td>1,809,040</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(4) 未収投資助言報酬</td> <td>241,699</td> <td>241,699</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(5) 未払金</td> <td>(1,111,007)</td> <td>(1,111,007)</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					貸借対照表計上額()	時価()	差額	(1) 預金	1,166,384	1,166,384	-	(2) 未収委託者報酬	319,860	319,860	-	(3) 未収運用受託報酬	1,809,040	1,809,040	-	(4) 未収投資助言報酬	241,699	241,699	-	(5) 未払金	(1,111,007)	(1,111,007)	-												
	貸借対照表計上額()	時価()	差額																																								
(1) 預金	1,166,384	1,166,384	-																																								
(2) 未収委託者報酬	319,860	319,860	-																																								
(3) 未収運用受託報酬	1,809,040	1,809,040	-																																								
(4) 未収投資助言報酬	241,699	241,699	-																																								
(5) 未払金	(1,111,007)	(1,111,007)	-																																								
<p>() 負債に計上されているものについては、()で示しております。</p> <p>(注1) 金融商品の時価の算定方法 (1) 預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、(4) 未収投資助言報酬、並びに(5) 未払金 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。</p> <p>(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年以内</th> <th>1年超 5年以内</th> <th>5年超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 預金</td> <td>1,166,384</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2) 未収委託者報酬</td> <td>319,860</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3) 未収運用受託報酬</td> <td>1,809,040</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(4) 未収投資助言報酬</td> <td>241,699</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					1年以内	1年超 5年以内	5年超	(1) 預金	1,166,384	-	-	(2) 未収委託者報酬	319,860	-	-	(3) 未収運用受託報酬	1,809,040	-	-	(4) 未収投資助言報酬	241,699	-	-	<p>() 負債に計上されているものについては、()で示しております。</p> <p>(注1) 金融商品の時価の算定方法 (1) 預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収運用受託報酬、(4) 未払金、並びに(5) 未払消費税等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。</p> <p>(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年以内</th> <th>1年超 5年以内</th> <th>5年超</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 預金</td> <td>2,667,202</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2) 未収委託者報酬</td> <td>333,851</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3) 未収運用受託報酬</td> <td>2,077,095</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>					1年以内	1年超 5年以内	5年超	(1) 預金	2,667,202	-	-	(2) 未収委託者報酬	333,851	-	-	(3) 未収運用受託報酬	2,077,095	-	-
	1年以内	1年超 5年以内	5年超																																								
(1) 預金	1,166,384	-	-																																								
(2) 未収委託者報酬	319,860	-	-																																								
(3) 未収運用受託報酬	1,809,040	-	-																																								
(4) 未収投資助言報酬	241,699	-	-																																								
	1年以内	1年超 5年以内	5年超																																								
(1) 預金	2,667,202	-	-																																								
(2) 未収委託者報酬	333,851	-	-																																								
(3) 未収運用受託報酬	2,077,095	-	-																																								

(有価証券関係)

第23期 2020年12月31日現在		第24期 2021年12月31日現在	
-----------------------	--	-----------------------	--

1. その他有価証券で時価のあるもの 該当事項はありません。	1. その他有価証券で時価のあるもの 同左
2. 当期中に売却したその他有価証券 注記すべき有価証券の売却取引を行っていないため、 該当事項はありません。	2. 当期中に売却したその他有価証券 同左

(デリバティブ取引関係)

第23期 2020年12月31日現在	第24期 2021年12月31日現在
該当事項はありません。	同左

(退職給付関係)

第23期 2020年12月31日現在	第24期 2021年12月31日現在
1. 採用している退職給付制度の概要 退職一時金規程に基づく退職一時金制度と企業型年金 規約に基づく確定拠出年金制度を採用しております。な お当社が有する退職一時金制度は、簡便法により長期未 払金及び退職給付費用を計上しております。	1. 採用している退職給付制度の概要 同左
2. 退職一時金制度 (単位：千円)	2. 退職一時金制度 (単位：千円)
(1) 長期未払金の当期首残高と当 期末残高の調整表	(1) 長期未払金の当期首残高と当期 末残高の調整表
長期未払金の当期首残高 911,360	長期未払金の当期首残高 969,842
退職給付費用 103,176	退職給付費用 103,375
退職給付の支払額等 45,394	退職給付の支払額等 112,591
その他 700	その他 -
長期未払金の当期末残高 <u>969,842</u>	長期未払金の当期末残高 <u>960,625</u>
(2) 退職給付費用 (単位：千円)	(2) 退職給付費用 (単位：千円)
簡便法で計算した退職給付費用 103,176	簡便法で計算した退職給付費用 103,375
3. 確定拠出制度 (単位：千円)	3. 確定拠出制度 (単位：千円)
確定拠出制度への要拠出額 47,290	確定拠出制度への要拠出額 45,649

(ストック・オプション等関係)

第23期 自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日	第24期 自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日
該当事項はありません。	同左

(税効果会計関係)

第23期 2020年12月31日現在	第24期 2021年12月31日現在
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別 内訳 (単位：千円)	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別 内訳 (単位：千円)
繰延税金資産	繰延税金資産
未払費用 201,731	未払費用 237,621
賞与引当金 144,505	賞与引当金 140,099
資産除去債務 1,482	資産除去債務 4,472

長期未払金	296,965	長期未払金	294,143
長期未払費用	2,583	長期未払費用	4,088
その他	14,323	その他	64,437
繰延税金資産合計	661,590	繰延税金資産合計	744,862
評価性引当額	606,477	評価性引当額	744,862
繰延税金資産の純額	55,112	繰延税金資産の純額	-
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	30.62%	法定実効税率	30.62%
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.57%	交際費等永久に損金に算入されない項目	0.74%
住民税均等割	0.04%	住民税均等割	0.01%
評価性引当額の増減	10.17%	評価性引当額の増減	6.97%
その他	0.09%	その他	0.01%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.97%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.36%
3. 法人税等の変更等による影響		3. 法人税等の変更等による影響	
該当事項はありません。		同左	

(資産除去債務関係)

第23期 2020年12月31日現在	第24期 2021年12月31日現在
資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの	
1. 当該資産除去債務の概要 建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。	
2. 当該資産除去債務の金額の算定方法 物件ごとに使用見込期間を見積り、割引率は使用見込期間に応じた割引率を使用して資産除去債務の金額を計算しております。	
3. 当該資産除去債務の総額の増減 (単位：千円)	3. 当該資産除去債務の総額の増減 (単位：千円)
当期首残高	37,460
有形固定資産の取得に伴う増加額	38,045
時の経過による調整額	1,036
資産除去債務の履行による減少額	37,460
当期末残高	39,081
	当期首残高
	時の経過による調整額
	当期末残高
	39,081
	41,239

(セグメント情報等)

第23期 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
--

1. セグメント情報					
<p>当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っております。上記の他に、資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を行っております。当社は投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業及びこれらの附帯業務並びに資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。</p> <p>従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。</p>					
2. 関連情報					
(1)製品及びサービスごとの情報					
(単位：千円)					
	投資信託業	投資一任業	投資助言業	その他	合計
外部顧客への営業収益	1,057,846	5,893,355	596,632	532,590	8,080,425
(2)地域ごとの情報					
<p>営業収益</p> <p>本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。</p> <p>有形固定資産</p> <p>本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。</p>					
(3)主要な顧客ごとの情報					
(単位：千円)					
顧客の名称又は氏名	営業収益		関連するセグメント		
A社()	4,167,769		投資一任業・投資助言業		
B社()	857,651		投資一任業・投資助言業		
() A社及びB社との間で守秘義務契約を負っているため、社名の公表は控えております。					
3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報					
該当事項はありません。					
4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報					
該当事項はありません。					
5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報					
該当事項はありません。					

第24期

(自 2021年 1月 1日
至 2021年12月31日)

1. セグメント情報					
<p>当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業、第二種金融商品取引業を行っております。上記の他に、資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を行っております。当社は投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業及びこれらの附帯業務並びに資産運用に関する情報提供及びコンサルティング業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。</p> <p>従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。</p>					
2. 関連情報					
(1)製品及びサービスごとの情報					
(単位：千円)					
	投資信託業	投資一任業	投資助言業	その他	合計

(2) 重要な関連会社
該当事項はありません。

第24期（自2021年1月1日 至2021年12月31日）

1. 関連当事者との取引
親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容	議決権等の 被所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上の 関係				
親会社	Russell Investments Japan Holdco 合同会社	東京都 港区 虎ノ門	1円	持株会社	直接所有100%	兼任3人	連結納税	法人税の支払	568,218	未払金	568,357

兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容	議決権等の 被所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上の 関係				
親会社 の子会社	Russell Investments Group, LLC	アメリカ合衆 国, ワシントン州 シアトル市	-	コーポ レート サポート	なし	兼任1 人	業務委 託 契約の 締結	グループ会 社 間取引の 資金決済	564,443	未払金	355,020
親会社 の子会社	Russell Investments Implementation Services, LLC	アメリカ合衆 国, ワシントン州 シアトル市	-	運用執行 サービス	なし	兼任1 人	業務委 託 契約の 締結	その他収益	16,569	未収入 金	-
								委託調査費	2,302,921	未払金	175,737

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注)当事業年度より、Russell Investments Implementation Services, LLCと、直接、資金決済を行っております。

なお、取引の内容については、グループ会社との間で合理的な基準により決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

Russell Investments Japan Holdco合同会社（非上場）

Russell Investments Group, Ltd.（非上場）

TA Associates Management, L.P.（非上場）

Reverence Capital Partners, L.P.（非上場）

(2) 重要な関連会社

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	第23期 自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日	第24期 自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日
1株当たり純資産額	35,068.31円	1株当たり純資産額 46,522.49円
1株当たり当期純利益	8,234.27円	1株当たり当期純利益 35,888.87円
損益計算書上の当期純利益	280,706千円	損益計算書上の当期純利益 1,223,451千円
1株当たり当期純利益の算定に用いられた 普通株式に関する当期純利益	280,706千円	1株当たり当期純利益の算定に用いられた 普通株式に関する当期純利益 1,223,451千円
差額	-	差額 -
期中平均株式数		期中平均株式数
普通株式	34,090株	普通株式 34,090株

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。
---	---

(重要な後発事象)

第23期 自 2020年 1月 1日 至 2020年12月31日	第24期 自 2021年 1月 1日 至 2021年12月31日
該当事項はありません。	同左

独立監査人の監査報告書

2022年3月23日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士 鶴田 光夫

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているラッセル・インベストメント株式会社の2021年1月1日から2021年12月31日までの第24期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ラッセル・インベストメント株式会社の2021年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年3月30日

ラッセル・インベストメント株式会社
取締役会 御中

PwC あらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているラッセル・インベストメントDC国内債券F（運用会社厳選型）の2021年8月21日から2022年2月20日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ラッセル・インベストメントDC国内債券F（運用会社厳選型）の2022年2月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2021年8月21日から2022年2月20日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、ラッセル・インベストメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合

は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

ラッセル・インベストメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2 . XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。